

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 三豊市立下高瀬小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒767-0032
香川県三豊市三野町下高瀬760番地1

E-mail shimotakase@city.mitoyo.kagawa.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 96名 女子 100名 合計 196名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、12年前より地球温暖化防止による環境保全を目的として、地域や専門家と連携しながら、「自分たちにもできる省エネ」を発見し、実践し、発信して広げていく活動を通して、子どもたちの実践的な態度や自分たちの生活を支えているものや人に感謝する心を育ててきた。

具体的には、日常的な省エネ活動、省エネ活動を推進するための体験的な活動を行った。

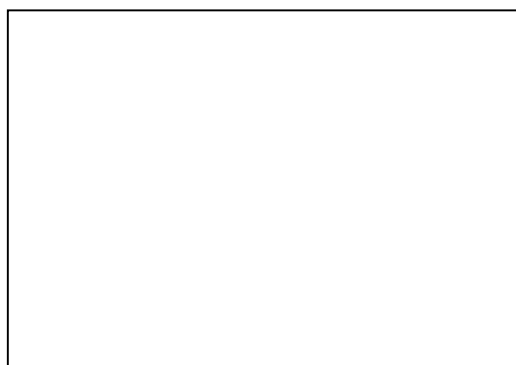
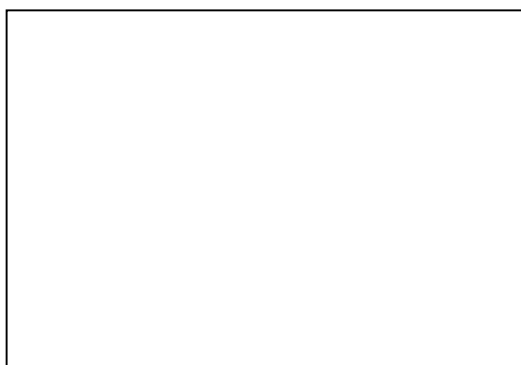
① 日常的な省エネ活動

12年前に制定された「下小もったいない憲法」のもと、児童と教職員とともに省エネ活動に取り組んでいる。憲法は全6条からできており、1条誰も使っていない部屋の電気を消しましょう 2条持ち物に名前を書いて最後まで大切に使いましょう 3条リサイクルをしましょう 4条水を大切に使いましょう 5条好き嫌いなく給食を食べましょう 6条お家にも省エネを広げましょう である。

また、その一環として児童会がアルミ缶回収を行い、年間3000kg近く
のアルミ缶を回収することができた。省エネ委員会も全校生に対し、「もった
いない憲法」についての啓発活動を行い、省エネに対する意識の向上を目指し
た。

②省エネ活動を推進するための体験的な活動

4年生が学校の近くを流れる高瀬川の環境調査及び保全活動を行い、ゴミの
分別の重要性や水の大切さについて理解することができた。また、5年生は無
農薬のアイガモ農法で県特産の「おいで米」を作り、環境に優しい米づくり
について学習した。



① の写真 (キャプション)

② の写真 (キャプション)

③ の写真 (キャプション)

④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

低学年，中学年，高学年それぞれ発達段階に応じた目標を立て，その目標に向けて各教科や道徳，特別活動，総合的な学習の時間の年間計画に組み込んでいる。また，年度の終わりには，各学年で1年間の活動を振り返り，次年度に向けて改善点等を引き継ぐようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため，どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校と家庭，地域社会との連携を深め，地域や家庭の教育力を生かした取り組みを推進している。地域の協力のもと行う米づくりや，家庭との連携で推進する省エネ活動の定着など，学校の外に発信することで職員が異動しても継続的な活動ができると考えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童と保護者へのアンケート調査および学校評価委員会による評価を行った。活動を始めて10年以上が経過し，活動のマナー化から，児童や保護者の意識が低下してきている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校だよりやホームページ等で家庭や地域に発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

下小ファームや下高瀬すこやか会議と連携を図り、地域の中で活動することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

交流することはできなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

活動のマンネリ化の反面、学校生活の中や地域の中で当たり前のように省エネ意識が定着しているとも言える。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

児童会や省エネ委員会を中心とした日常的な省エネ活動や、河川調査や保全活動、環境に優しい無農薬のアイガモ農法による米づくりなどを行う。